薬局・薬剤師による服薬指導・残薬リスク啓発フロー

本資料は、薬局薬剤師が服薬に問題があると思われる患者をピックアップし、残薬のリスクなどを啓発するためのフローです。

①自己紹介・声掛け

・啓発時はプライバシーに配慮し、実施する。

・自己紹介（名前・薬剤師）を行ってから始める。

②服用薬の確認（薬歴・お薬手帳の活用）

③服薬指導

○お薬手帳のない方

（１冊にまとめていない方）

ア．服薬状況の確認

お薬手帳の重要性について説明

服薬状況の確認。

（残薬の内容の確認）

ａ．服薬良好（残薬なし）

【残薬のリスク】

　○症状の悪化

　○正確な診断が困難

→　より強い薬（副作用リスク）

○家族の誤飲

○（症状悪化・副作用等による）

医療費の増加

・症状安定（改善）

　→　服薬の継続※

・症状悪化

　→　かかりつけ医へ相談指示

※　自己判断により服薬を止めないよう指導。

ｂ．服薬に問題あり（残薬あり）・服薬状況が不明（把握できない）

・**残薬のリスクを啓発**。ブラウンバッグ（お薬バッグ）の配布や患者宅を訪問

する等、飲み忘れの状況・原因を把握し、残薬対策と服薬遵守の徹底を行う。

・**他職種（訪看やケアマネ等）からの情報提供に基づく患者様宅訪問**　等

イ．お薬を飲み忘れないための工夫を啓発（平成２７年度実施した残薬調査結果から）

・**自宅でお薬を保管する場合は、１か所にまとめておくことで飲み忘れを減らすことができること。**

・飲み忘れを防止するための工夫（一包化、お薬カレンダーなど）があることを説明。